

七戸町 地震ハザードマップ

【揺れやすさ・液状化マップ】



**いざという時に備えて安心。
ご家庭でも防災対策を!**

ハザードマップとは、七戸町への影響が大きいと考えられる地震の揺れを想定し、避難場所の情報などと合わせてマップに示したものです。

東日本大震災の発生以降、大規模地震の発生予測について研究を進めている政府の地震調査委員会より、今後 30 年間にマグニチュード7~8*の大地震が起きる可能性が高いとする予測が公表されています。

このマップを活用して、住宅の耐震化・家具の固定などの日頃の防災対策や地震発生後の避難などに役立てましょう。

*一般にマグニチュード7以上の地震を大地震、8以上の地震を巨大地震と呼ぶことがあります。

地震ハザードマップについて

七戸町では、今後発生する可能性のある地震について、町民の皆様の日頃からの備えに役立てていただくために、地震に関するハザードマップを作成しました。このハザードマップは、青森県が実施した「青森県地震・津波被害想定調査」の結果を基に作成しています。

ご自宅の周辺、通勤・通学路等について、想定される揺れの大きさを確認し、災害準備や避難する際の情報として役立てましょう。

なお、危険度の色分けは、あくまでも予測結果であることをご理解のうえ、ご活用ください。

揺れやすさマップについて

「揺れやすさマップ」に表示されている想定震度は、青森県内全域にわたって被害が想定される3地震についての震度予測結果を重ね合わせ、最大となる震度（太平洋側海溝型地震時の最大マグニチュード9の場合）を採用した結果を表示したものです。震度予測は250mメッシュごとに行い、震度別に色分けをして表示しています。

なお、震源の位置や地震の規模が異なれば、地域の地表の揺れはマップに示した震度よりも強くなったり弱くなったりすることがあります。

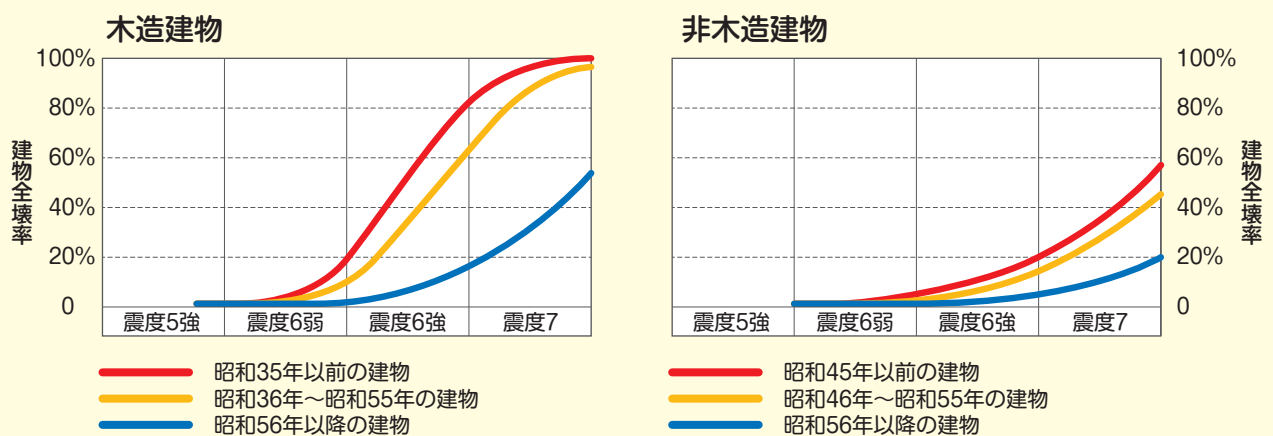
液状化マップについて

「液状化マップ」は、「揺れやすさマップ」で示された震度となった場合に液状化が起こる可能性を示したものです。液状化の可能性は、ある地点の液状化の可能性を総合的に判断したP L値により判定しています。

震源の位置や地震の規模が異なれば、液状化が発生しない場合もあります。液状化が生じやすい場所では地盤の締固めや、軟弱な地盤を改良するといった対策をとることで液状化しにくく、または被害を小さくすることが可能です。

なお、液状化現象は、地震動の大きさや揺れの長さ、地盤の特性や地下水の状況などによって異なります。このため、液状化対象外となっている地域についても、池・湖・川等の近くや池・川・水田等を埋め立てた場所などは液状化に対して注意をしなければならないことに留意してください。

過去の地震による震度と建物全壊率の関係



※上図は建物の構造・建築年別で示しており、震度に対し建築年代が古いものほど、建物全壊率は高く、特に「震度6弱」以上で急激に全壊率は高くなる傾向があります。

地震のメカニズムなど

地震発生のしくみ

日本列島の周辺には4つのプレート（板状の堅い地殻）があり、年に数センチの速度で一定の方向に動いています。プレート同士の運動により、プレートの境界や周辺で生じる「ひずみ」が地震を引き起こす原因です。日本では主に海洋型と活断層型の2種類の地震が起きています。

マグニチュードとは？

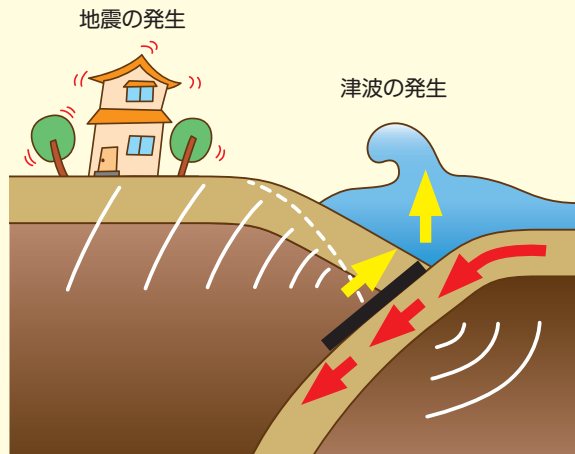
マグニチュード（以下Mと表記）は、地震の規模を表す単位です。関東大震災はM7.9、阪神・淡路大震災はM7.3でした。Mが0.2大きくなると地震のエネルギー規模は約2倍に、またMが1大きくなると約32倍になります。

震度とは？

震度は地震の際の各地点の揺れの大きさを表します。ある地点が実際にどう揺れるかは、地震のエネルギー規模だけではなく、震源からその地点までの距離、地盤条件等に左右されます。

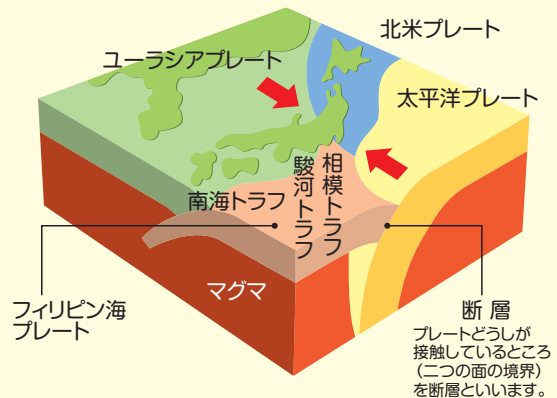
海洋型地震

海洋側のプレートの潜り込みにより大陸側のプレートが引きずり込まれ、境界にひずみがたまり、限界に達すると元に戻ろうとしてはね上がり、地震が発生します。



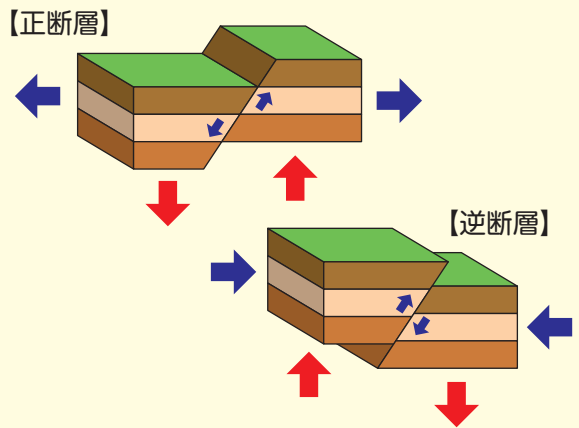
日本周辺のプレートの状況

プレート同士が接触しているところ（二つの面の境界）を断層といいます。



活断層型地震

陸地の地殻もプレートの運動によりいたるところで「ひずみ」が生じています。このひずみを解消するため、過去の地震により生じた断層（活断層）を震源として地震が発生します。













マグニチュードと震度の関係

マグニチュードと震度の関係は、電球の明るさと机の明るさとの関係に例えられます。同じ電球からの光でも、机がどの位置にあるかで、机の上の明るさは異なります。このように、マグニチュードが同じ地震であっても、震源が遠ければ震度は小さく、震源が近ければ震度は大きくなります。また、地盤の質の違いによっても、震度の大きさは左右されます。



震度 (届く光の強さ)

地震の揺れと被害状況

計測震度	気象庁震度階級	状況		
		人の様子	家の内外の様子	建物への影響
6.5	7	 揺れに翻弄され、自分の意志で行動できない。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の高い住宅でも傾いたり、大きく破損するものがある。
6.0	6強	 立っていることが出来ず、はわないと動くことが出来ない。	固定していない重い家具のほとんどが、移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多い。耐震性の高い住宅でも壁や柱がかなり破損するものがある。
5.5	6弱	 立っていることが困難になる。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。
5.0	5強	 非常な恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。自動車の運転が困難となり、停止する車が多い。	棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。タンスなど重い家具が倒れることがある。多くの墓石が倒れる。	耐震性の低い木造住宅では、壁や柱がかなり破損したり、傾くものがある。
4.5	5弱	 多くの人が、身の安全を図ろうとする。一部の人は行動に支障を感じる。	つり下げる物は激しく揺れ、棚にある食器や書棚の本が落ちることがある。窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れているのがわかる。	耐震性の低い木造住宅では、壁や柱が破損するものがある。
3.5	4	 かなりの恐怖感があり、一部の人は身の安全を図ろうとする。歩いている人も揺れを感じる。	つり下げる物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。電線が大きく揺れる。	
2.5	3	 屋内にいるほとんどの人が揺れを感じる。	棚にある食器類が音を立てることがある。電線が少し揺れる。	
1.5	2	 屋内にいる人の多くが揺れを感じる。	電灯などのつり下げ物がわずかに揺れる。	
0.5	1	 屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。		
	0	 人は揺れを感じないが、地震計に記録される。		

地震発生時の行動

地震発生時は、あわてず、落ち着いて、身の回りの安全を確認しましょう。

グラッと
きたら
地震発生!!

土砂災害の危険が
予測される地域は、
すぐ避難!!

命を守る

- 落ち着いて、自分の身を守る
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する



1~5分

揺れが収まってから
行動

家族を守る

- 家族の安全を確認
- 火の元を確認・初期消火
- 足をケガしないように靴をはく
- 必需品を手元に用意する
- 余震に注意



5~10分



地域を守る

- 隣近所の安全を確認
- ラジオなどで情報を確認
- 電気のブレーカーを切る
ガスの元栓を閉める
- 家屋倒壊などの恐れがあれば避難する



10分~
数時間後

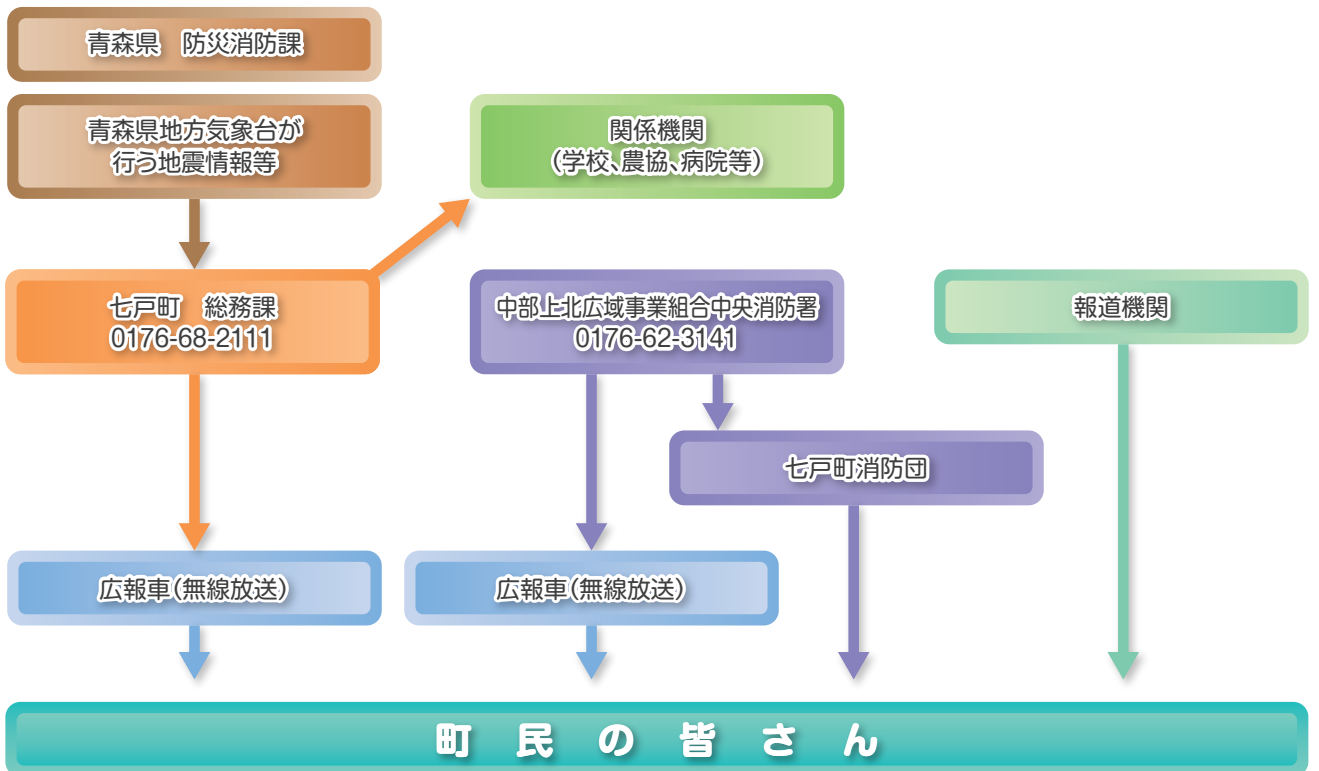
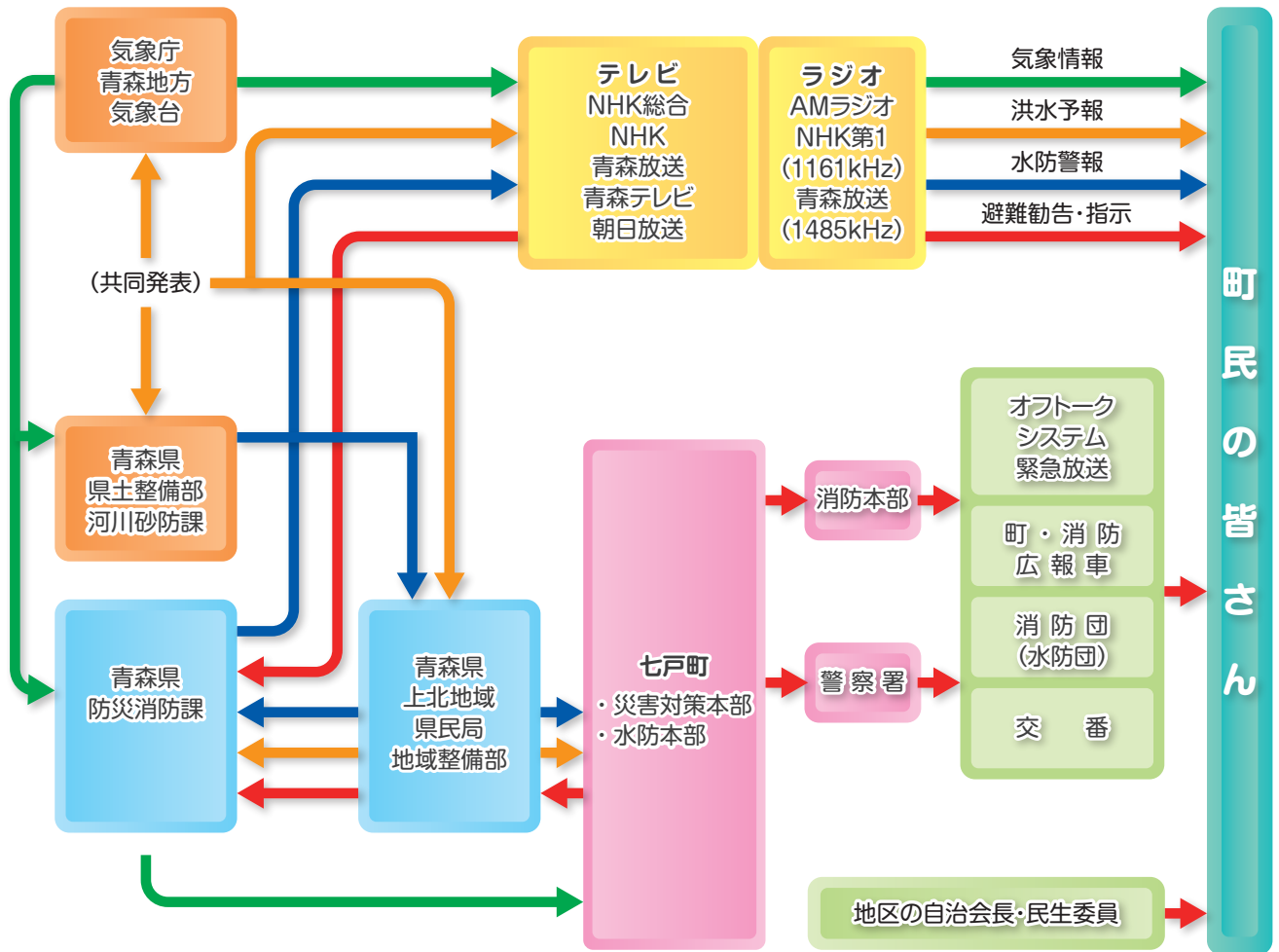
避難生活

助け合いの心で

- 協力して消火・救出活動
- 壊れた家には入らない
- 水・食料は備蓄でまかなう
- 引き続き余震に注意
- 災害情報、被害情報の収集
- 避難場所では集団生活のルールを守る



情報の伝達経路

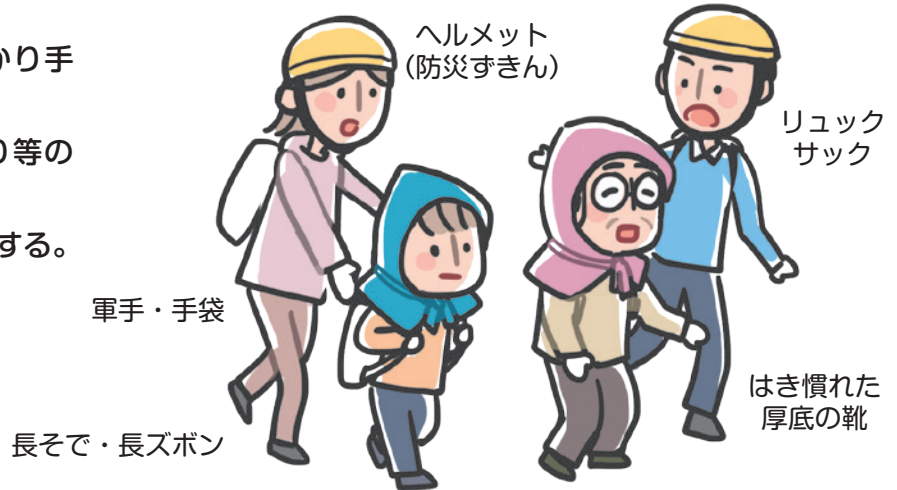


避難の留意点

安全に避難するポイント

- 自宅の火の元を確かめ、電気ブレーカーを切る。
- 山間部などの一部地域を除き、必ず徒歩で避難する。
- 高齢者や子どもは、しっかり手を握って誘導する。
- 狭い道、塀の近く、川べり等の危険な場所を避ける。
- 近所の人たちと集団で避難する。

避難時の服装



災害用伝言ダイヤル

災害用伝言ダイヤル (171)

災害時には、安否確認、問い合わせなどの電話が急増し、電話がつながりにくい状況が続くことがあります。そのような時、この「NTT 災害用伝言ダイヤル」を使って、家族や知人に伝言を録音したり、相手方の伝言を再生することができます。



- 「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音再生を行ってください。(下図参照)
- 「災害用伝言ダイヤル」に登録できる電話番号は、被災地内の固定電話番号及び携帯電話・PHS・IP 電話の電話番号です。被災地内からご利用の場合も固定電話番号は必ず市外局番からダイヤルしてください。
- 録音された伝言は、被災地の人の電話番号を知っているすべての人が聞くことができます。
- 提供開始や録音件数等、提供条件については NTT で決定し、テレビ・ラジオ等でお知らせします。

電話で録音

1 7 1 をダイヤル

録音は 1 を入力 (暗証番号を利用した場合は 3 です。)

被災地の方の 電話番号 の番号を入力
携帯電話等の番号でもご利用いただけます。

続けて 1 を入力 (ダイヤル式の方はそのままお待ちください。)

メッセージを録音

9 で終了

電話で確認

1 7 1 をダイヤル

再生は 2 を入力 (暗証番号を利用した場合は 4 です。)

被災地の方の 電話番号 の番号を入力
携帯電話等の番号でもご利用いただけます。

1 で伝言の再生 (ダイヤル式の方はそのままお待ちください。)

繰り返し再生は 8、次の伝言の再生は 9

再生後のメッセージ録音は 3

わが家の防災メモの使い方

家族が別々の場所にいるときに災害が発生した場合は、お互いの安否を確認できるように、あらかじめ避難場所や緊急連絡先について話し合っておきましょう。

わが家の避難場所	災害時の緊急連絡先
	※確実に連絡のとれる親類・知人など

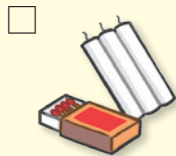
家族の名前	生年月日	血液型	会社・学校
			名称 TEL
			名称 TEL
			名称 TEL
			名称 TEL
			名称 TEL
			名称 TEL
			名称 TEL

非常時持ち出し品チェック

事前に確認しましょう。準備ができれば□にチェック



懐中電灯と
予備電池



ローソク
マッチ



救急箱や
くすり



小児に
必要なもの



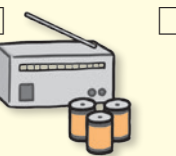
火や水の要らな
い食料 (3日分)



市販の飲料水
(3日分)



現金・貴重品
パスポート



携帯ラジオと
予備電池



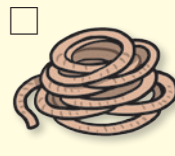
ヘルメット



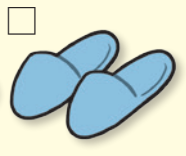
タオル



下着・くつ下



ロープ



スリッパ

- せっかく揃えた持ち出し品も定期的に点検しないと使用できない場合があります。
- 電池や缶詰などの賞味期限を半年に一度ぐらいは点検しましょう。

防災メモ
